クイック・ジャパン Quick Japan Vol.13

a voice of new-generation

Quick Japan



3

【特集 脳に効く音楽】

ゴア・トランスって何？

（まとめ 鶴見済）

DJ TSUYOSHI、浅野忠信インタビュー

【48時間ドキュメント】

『エヴァンゲリオン』ファンの「DEATH & REBIRTH」

誰も知らなかった「自販機エロ雑誌」の世界

トラウマ列車「きかんしゃトーマス」大研究

Quick Japan

Quick Japan a voice of new-generation All the STREET NEWS That's Fit to Print. クイック・ジャパン



Vol. 13

OHTA PUBLISHING INC. 太田出

9784872333332

ISBN4-87233-329-2 C0095 ¥800E

定価（本体価格 800 円＋税）

1920095008O

this issue QUICK JAPAN Vol.13





see page 091

editor & publisher:
赤田祐一
cover design:
羽良多平吉&EDiX
editor:
大塚幸代
村上　清
assistant:
近藤正高
contributing editor:
北尾修一
高瀬幸途
layout:
井澤俊二
羽良多平吉&EDiX
廊統ひろし
SKATE-THING
山本茂智(『WAX』)
contributors:
アイカワタケシ
東浩紀
飯野形而
猪木朝
宇田川岳夫
内門洋
大泉実成
岡田斗司夫
北沢夏音
末藤浩一郎
杉森京子
SKATE-THING
清野栄一
竹熊健太郎
但馬オサム
鶴見済
D.M.B.Q.(増子＋松居)
中原昌也
NUDE
花形ハヤシ
東瀬戸悟
平野勝之
前田憲芳
松本亀吉
ミヤタケイコ
山崎春美
ヤマタカEYƎ
吉永嘉明
illustrations:
アテム
清水克弘
八品幸史郎
ヤマタカEYƎ
comics:
安部慎一
井上三太
ラショウ
camera:
稲葉ゲン(Commune)
ETHICA
林まこと
森　久
hair & styling:
渡辺康之(ソラリス)
translate:
鈴木千絵
tape-operate:
浜本万里
type setting:
(株)光邦
printing:
(株)光邦
advertisement:
後田泰輔
松村由貴
edited by:
クイック・ジャパン編集部
published & distributed by:
(株)太田出版

FEATURES

REPORTING

TALK WITH

REGULARS

INTERVIEWS

COMICS

FROM READERS

FROM EDITORS

former info. to QUICK JAPAN
TEL：(03)3359-6281 FAX：(03)3359-0040 © QUICK JAPAN 1997
東京都新宿区荒木町22 エプコットビル1F (株)太田出版『QUICK JAPAN』編集部

cover：浅野忠信 pic：稲葉ゲン(Commune) hair & styling：渡辺康之(ソラリス)





see page 08

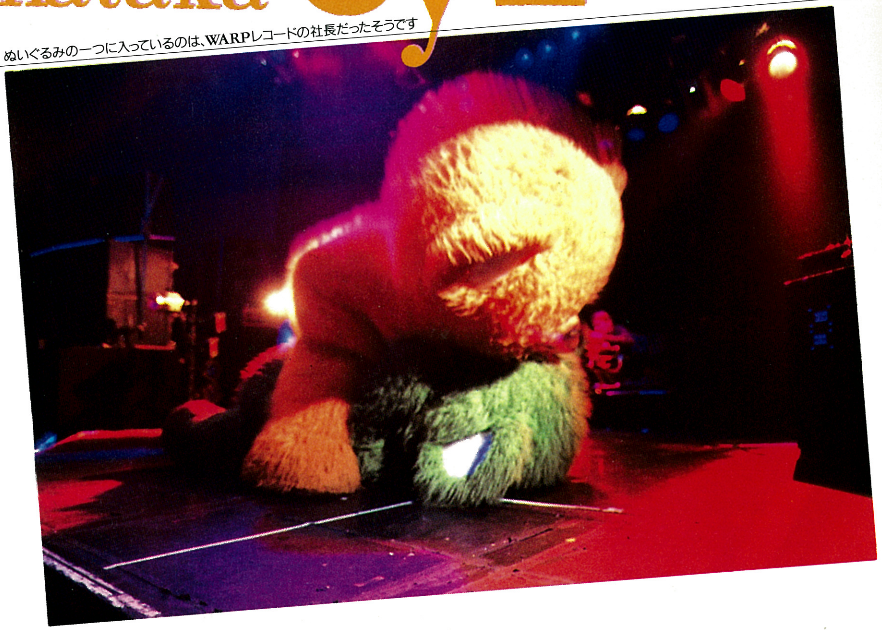
AphеX TwiN

リチャード・D・ジェイムスの顔を貼りつけた、二つの巨大なぬいぐるみが乱入!!



Yamataka EYЕ

ぬいぐるみの一つに入っているのは、WARPレコードの社長だったそうです



1997年1月30日、於❖大阪・ベイサイド・ジェニーで行なわれた"エイフェックス・ツイン"のライブより

音・響・対・談

エイフェックス・ツイン VS ヤマタカEYE

illustration: EYE

pics: ETHICA



「APHEXのライブをみて」

これでテクノは終った……そんなカッコよさとゆうか
ココ最近のライブで一番ガツーンと来た。
見たのは「徹子の部屋」というか
「リチャードの部屋」というか、
会場に着くなりステージにデーンと
ソファーベッドをセッチしゴロリンでリハ。
ライブ中は一度も立たず寝ながらライブ！
ベッドルームをそのままブリーング、
その前を二匹のケーコーみどり&オレンジの
アフェックスくまがダンスと空手など。
このクマは無秩序な亀みたいだった。アナーキー・ロンパールーム・ショー！
ひっさつ右・左の部屋かたづけてなさそうな絶縁体音響に、
られつがまわらなくなる、いや、ろれつがられつする、られつがまらる、
ろれるらまららなし（文・ヤマタカEYE）



エイフェックス・ツイン×ヤマタカEYE「ベッドで寝ながらライブ」

PICS：ETHICA
通訳：鈴木千絵

定着・拡散した観の強いテクノ・シーンにおいて今なお、たった一人で音楽の革新を続ける孤高の二五歳、エイフェックス・ツイン。その突出した才能は、ドラムン・ベースを誰もマネ出来ないほど変形させた最新作『リチャード・D・ジェイムズ・アルバム』にもハッキリ現われている。そんな彼がこの一月、遂にライブ・アクトのため日本にやって来た。そこで本誌では、同じくテクノを独自に解釈するアーティスト・ヤマタカEYE氏との対談を企画。様々な意味で同時代を代表するこの二人、テクノの話題はあんまり出なかったけど、もっと重要な話をしてくれたのではないでしょうか。（編集部）



ヤマタカEYE●おなじみ“ボアダムズ”のVo.。先頃、自身のレーベル“ショック・シティ”をスタート。“ハナタラシ”のCDや“ノイズ・ラモーンズ”のアナログ盤などを続々とリリース



エイフェックス・ツイン●イギリスはコーンウォール出身の、テクノ界最大の才能。本名はリチャード・D・ジェイムズ。アンビエントなイメージがあるかもしれないが、来日ライブでは、ハードでインダストリアルな側面が全開していた

EYE これ、どうぞ（EYE氏の本『NANOO』を渡す）これ、ぼくのコラージュ・ブックなんだけど。

AFX ありがと……アハハハ、なんだこれ！

EYE “ボアダムズ”知ってるの？

AFX うん、ロンドンのガレージでライブやった時、見に行ったしCDも聴いてるよ。え〜と、僕らは何について話をすることになってるんだい？

EYE 何も決まってない（笑）。なんかスタジオに戦車を持ってて、レコーディングに使ってるって聞いたんですけど、どんな使い方をしてるんですか？

AFX あ、あれね。戦車の内側では、音がリバーブをかけたみたいに反響するんだ。自然なエコーが生じて、いろんな音が録れる。付属のマシンガンだってちゃんと使えるんだよ。

EYE ホンマに持ってんや。ボカンちゃんか。マイケル・ジャクソンみたい。マイケル・ジャクソンはライブ・ショーに戦車を使うって話やけど。

AFX 僕も使おうとは思ってたんだよ。ただ弾がなくなってね。近所のガキが勝手に戦車に入りこんで、弾をみんな盗んでいってしまったんでね。

EYE 別に撃たなくていいと思うけど……。アブないなー。その子達、爆死してないんですか？

AFX 別に問題ない。

客席にジューサー・ミキサー

EYE いつもベッドで寝ながらライブやるの？

AFX それほどでも……というか、ショー自体、この三年間で一〇回しかやってないしね。

EYE 君は今までに何回ぐらいショーをやったの？

AFX ライブ？ よーやるけど日本で少ない。わからん。一ケ月に二〇回とか。僕もベッドで寝ながら、ライブしながら寝るのが夢。

AFX ハハハ（笑）。

EYE で、あのぬいぐるみ（巻頭グラビア参照）は、あなたが着るんですか？

AFX ああ、あのクマ？ そう（実際はWARPレコードの社長が着て踊ってた）。

EYE あれ、やっぱクマなんか〜。前にあなたの作った二枚組サンド・ペーパーのDJセットもらって……、確か二〇〇枚限定の。

AFX 違う荒さの二枚のサンド・ペーパーをピッチ・コントロールでジョイントさせて、実際に客が見てる前でDJブースでかけて、二枚をミックスしてるふりをして遊ぶんだ。冗談みたいなもんだけど。

EYE 目の荒さが二枚それぞれ違ってて、かけてみたら違う音だった。

AFX ポルノ写真のプリントがペーパーにくっつけてあって、違うリズムが出るようにしてあるんだ。

EYE 一方にサンド・ペーパーで、もう一方にジューサー・ミキサーで、それにレコード針を突っこんでっていうDJスタイルもやってた？

AFX そう、ジューサー・ミキサーを回して、抱えてかけるんだ。

EYE うわー、台所でパーティしてるみたいやん。ほんで皆、踊る？

AFX YES。

EYE キッチン・ダンサーズ！

AFX 初めは、客もそう乗り気じゃなかったけど、ジューサー・ミキサーを回ってるまま客席に放り投げたら、ひとりの観客の頭に刃が当たったんだ。でも、別になんてことなくて、後からそのジューサー・ミキサーにサインしてくれって頼まれたよ。

EYE 音楽を作る時、お兄さんと交信したりすることはあるんですか。（編註・AFXには亡くなった兄がいるらしい）

AFX 特に音楽を作る時とかに限らず、普段からあるよ。特に強いものじゃないんだ。言ってみれば守護天使（ガーディアン・エンジェル）とか、いつも僕を見守ってくれている存在、そういったものなんだ。

EYE 今でも一日三時間睡眠の生活？ 僕、一日一八時間くらい寝る……。

AFX 一八時間!? 僕の一週間分じゃないか！ 大丈夫かい？ 今、僕にはガールフレンドがいるから、そうでもないけれど、それ以前は、よく三日ぶっ続けで起きていて音楽を聴いたり、曲を作ったりしたことがよくあったよ。……好きなんだな、あの感じが……。二四時間寝ないでいると、血中にアドレナリンが溢れてきて、ますます頭が冴えてくるんだ。すごい速さで物を考えることが出来るようになる。

EYE 部屋、片付けてなさそうやなー。常に音楽を作ってるってイメージがあるんですけど（編註・AFXは曲を量産することで有名）、今回日本に来る飛行機の中でも曲を作ってたんですか。

AFX ああ、コンピューターでね。予備のバッテリーも持ってきてあるんだ。半トラック作った。でも、機内の空気は最悪だから、集中して考えることが出来ないんだ。再循環の空気で脳がやられてしまう。……（『BUDUB』のピクチャー・ディスクを見ながら）これ、すごいいね。僕のスタッフの一人がデザイナーで、あのぬいぐるみを作ったのも彼なんだけど。

EYE あのクマの名前は？

AFX ジョニー。

EYE ジョニー！

AFX ……あ、違う。それはデザイナーだ（笑）。クマね。えーと、なんだっけ。忘れた……。

EYE 月並みな質問ですが、日本には何度も来てるみたいですけど、日本の印象はどんな感じですか。

AFX 気に入ってるよ。……日本人って、僕らと外見、容貌が全然違うだろう？ 僕には日本人がエイリアンに見えるんだよ。だから、まるで別の惑星に来たみたいな感じ。日本に来る時はいつも、惑星旅行でもしてる気分になるんだ。

EYE ホントに。そんな変わってるかな。オレ海外行っても、向こうの人全然エイリアンには見えんけどなあ。全然フツーに見える。

AFX つまり、日本人と僕ら西洋人の顔つきが、いかに異なっているかっていうところに興味があるんだ。

EYE 実際、エイリアンに会ったことあるの？

AFX ない。だけど是非会ってみたい。会ってセックスしたい。

EYE 体位は？

AFX 問わないよ。

EYE ジャケのアート・ワークって自分でやってるんですか。

AFX YES。

EYE なんで、あんなヘンな顔のジャケットにしてるんですか。

AFX あの方がフレンドリーだからだよ（笑）。

EYE フレンドリーかなー……。

AFX （『NANOO』中のマークを指して）これサイコーにクレイジーだね！

EYE それ、からっぽの頭が、へこんでるところ。

AFX これ、ぼくの前の作品のレーベル・デザインと全く同じだ。それはシングルだったんだけど、日本ではアルバムと一緒に入ってるから、発売されてないけど。

スタジオに水族館

EYE このライブハウスの隣に、でっかい水族館があるんですけど（編註・大阪の「海遊館」）。

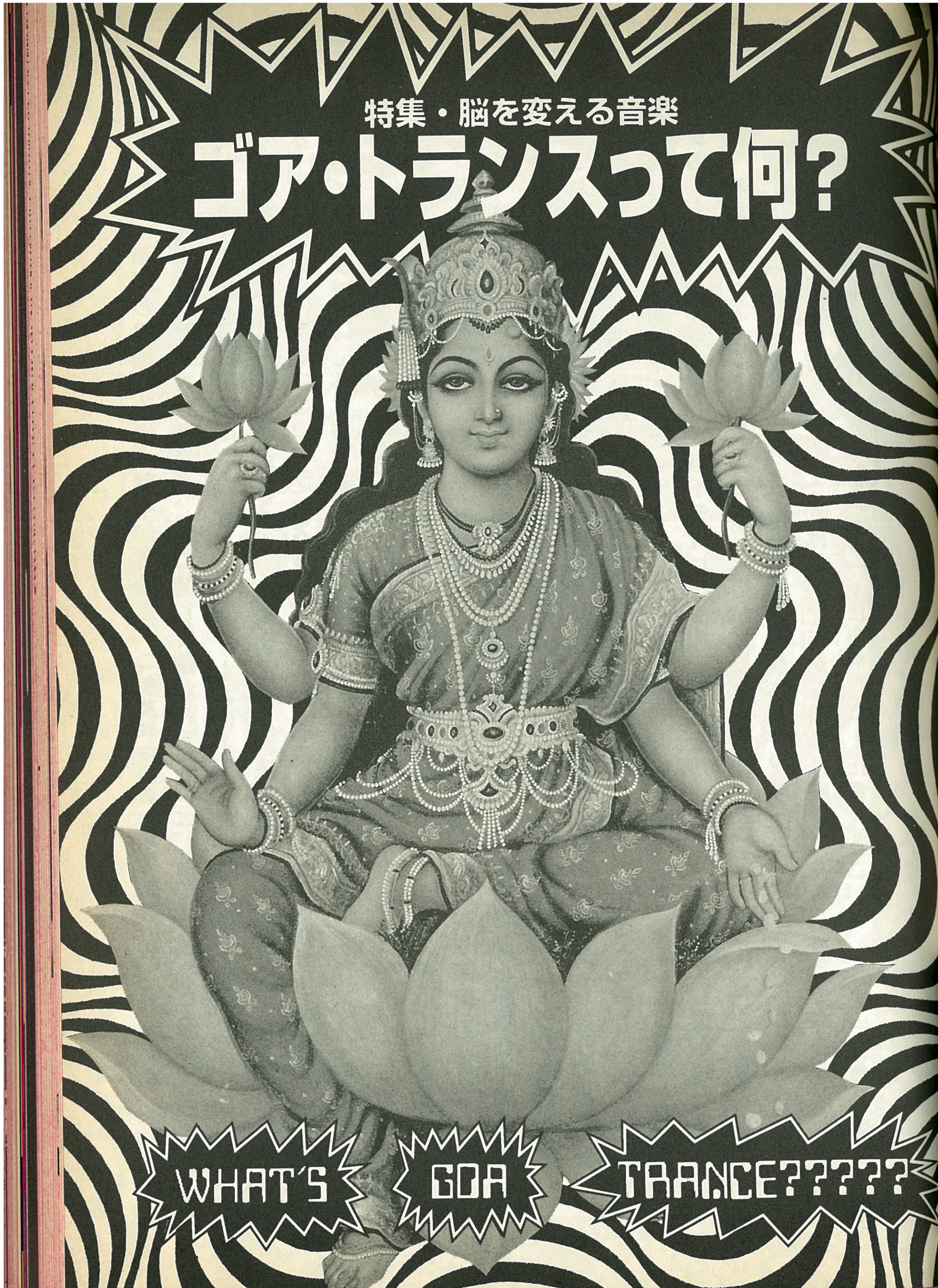
AFX ほんとかい？ サメとかいるの？

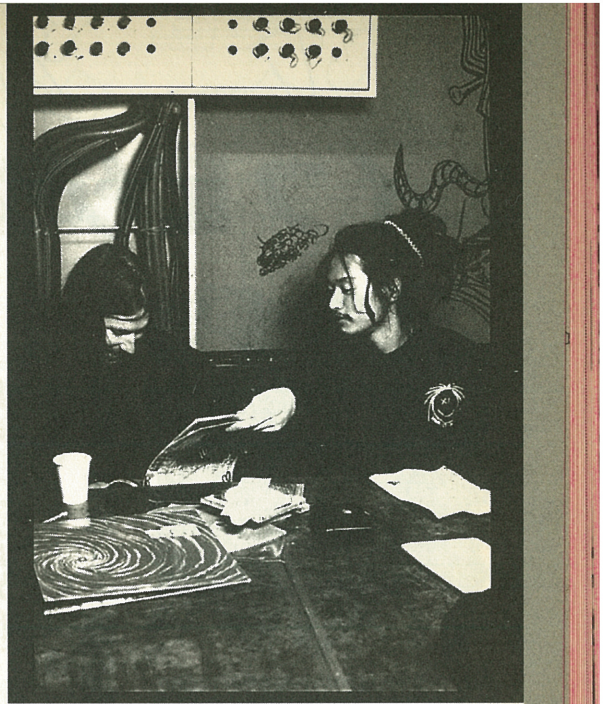
EYE ザバザバ泳いでる。この前ジンベイザメが死んで、みんな泣いたし。それで、あなたがリハしてた音が、そこの音と同じだった。

AFX ホント？

EYE 水族館がBGMを流してて、それがイルカとかサメの声なんだけど、それがさっきのサウンド・チェックの音と同じだった。かなり近い。

AFX 三日前にオーストラリアで水族館に行ったんだけど、すごく良かった。大きなプールの水面下にガラス張りの展示室があって……僕も絶対、自宅にひとつ欲しい。その中にスタジオも作るんだ。





この対談後に行われたAFXのライブは、彼自身にとっても「生涯で二番目に良かった」ライブだったらしい

EYE　それ、すごいね。

AFX　それが僕の生涯の野望と言っていい。

EYE　うわ。そんでそこに戦車も置くんですか。

AFX　もちろん。でも、かなり巨大なドアが必要だな。

EYE　そりゃ、イルカが驚くんでは？

AFX　イルカなんかいらないよ、僕は。女の子だけいればいいんだ。

EYE　女の子だけ？　なんやねんそれ、シブすぎ……。スポーツとかやりますか？　スケボーとか。

AFX　スケボー？　あれはもうやめた。生命の危険（バイオ・ハザード）を感じたからね。今はサイクリング、スイミング……僕は泳ぐのが凄く上手いんだよ。

EYE　エイフェックス・スイムかあ〜。あなたに一番影響を与えていそうな音楽家とか運動選手とかっているんですか？　バッハとか、モハメド・アリとか？

AFX　音楽のことは、ほんとによく知らないんだ、僕は。人の音楽を好きになるずっと前から、既に自分の音楽を作っていたからね。この五年というもの、他の人の音楽はほとんど聴いてない。まあ最近では“スクエアプッシャー”、“ヴゴン・クライスト”。この二つくらい。あと“ヴィーン”かな。

EYE　“ヴィーン”？　オレ一緒にやった。一緒にCD作ったよ。四年位前に。まだ出てないねんけど。はじめ「“WEEN”と“EYE”を足して“WEYEN”にしよー」とかゆーとったんやけど、“Z-ROCKハワイ”ってゆーのになったみたい。“WEEN”が農場の納屋みたいなとこ……ポッドって呼んでたけど、そこにスタジオ持っとって、録音しに行った。

AFX　ホント？　僕も大好きで、一緒に仕事したいと思ってるんだよ。それって何曲くらい作ったの？

EYE　一〇曲以上。

AFX　今の彼らは、ほとんどカントリー&ウエスタンだよね。最高。

今年はデス・メタルとクラシック

EYE　三歳ごろに音楽を始めたって聞いたんですけど、その頃、どういう機材で、どういうレコーダーで録ってたんですか。

AFX　リール・テープ。

EYE　八トラック？

AFX　はじめは二トラック。それからオーバー・ダブをやってた。

EYE　ピンポン？　いや〜、ピンポン録音サイコー。

AFX　もっと後になってからは四トラック。基本的にテープとピアノ。……始めたのは一〇歳の頃だったかなあ。

EYE　一〇歳？　早い、今いくつ？

AFX　二五。君はいくつぐらいから？

EYE　オレ一五歳くらいから音楽始めたけど。家の押し入れとか、トイレとかフロ場とかでラジカセ振り回しては壊すという……。あと、イギリスのバンドでオレ一番好きなのが、昔の“ナパーム・デス”ってバンドなんだけど、好きかな？

AFX　「ジョン・ピール・セッション」のやつをよく聴いてたよ。レコードは持ってなかったけど。……僕はレコードを一枚も持ってないんだ。でも、今年はデス・メタルとか、クラシックのレコードを買いまくろうと思ってる。“ナパーム・デス”は2セコンド・トラックス（一曲が二秒、メチャクチャ短い曲、の意）だったよね。

EYE　そうそう、あれ聴いた時、音楽の歴史が変わったと思った、オレは。

AFX　“ナパーム・デス”は、最初にヴォーカルが「ウォー！」ってスクリーミングしたグループだった。若い頃よく聴いたなあ。エレクトロニック・ミュージック以外の音楽は嫌いだったけど、“ナパーム・デス”だけは特別だった。……君は今後の音楽活動について、何か計画はある？

EYE　何もない。「計画」という概念が、よくわからない。

AFX　そう。ただ続けてやっていくだけ？

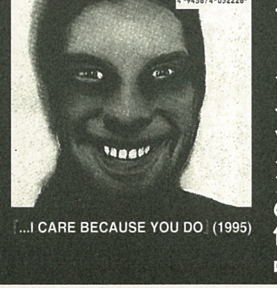
EYE　そう。テキトーにやりたいねんけど……それがケッコー難しくて、結局かなりテキトーになったりして。あなたは？

AFX　とにかく音楽を作り続けていくことだけ。それだけでいいんだ。

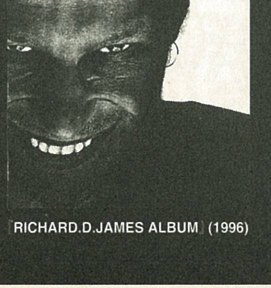
EYE　僕も。まー、音楽って音じゃなくても別にいいみたい。大昔のDNAで音作りたいなー。

（一九九七年一月三〇日、大阪・ベイサイドジェニーにて）

エイフェックス・ツインの作品



「I CARE BECAUSE YOU DO」(1995)



「RICHARD.D.JAMES ALBUM」(1996)

協力：SMASH WEST